

日本におけるベンチャーファイナンスのあり方

ベンチャー企業は今後の日本経済を発展させる可能性を秘めている。海外ではベンチャー企業が成長していくためのシステムが整っており、多くのベンチャー企業の成長が経済の活性化に繋がっている。その反面、日本では「資金調達」「出口戦略」等、ベンチャーファイナンスの分野が未発達である。ベンチャーファイナンスの現状や課題について分析し、ベンチャーファイナンスをより良いものにするための具体的方策について議論して欲しい。

【論点1】：ベンチャー企業の資金調達における現状と課題

具体的方策を提言するにあたり、ベンチャー企業の資金調達状況の現状を整理していただきたい。その上でどのような課題が存在するのかを見極めてほしい。

【論点2】：ベンチャー企業における VC、CVC のこれから

VC、CVC はベンチャー企業の主要資金調達元であり、VC では運営主体の違いによって投資するベンチャー企業の成長段階や目的が異なっている。現状、課題を整理した上で、あり方について議論してほしい。

【論点3】：ベンチャー企業の出口戦略における現状と課題

ベンチャー企業はさまざまなステークホルダーを有しており、そのほとんどが出口戦略遂行を期待している。日本のベンチャー企業の出口戦略における現状と課題について見極めてほしい。

【論点4】：望ましいベンチャーファイナンスの具体的方策

論点1～3を踏まえて、日本における望ましいベンチャーファイナンスについて定義した上で、具体的方策を模索していただきたい。

【留意点1】：ベンチャー企業の成長段階に応じた分析を行うこと

ベンチャー企業にはさまざまな成長段階があり、その段階に応じて現状や課題が異なる場合があるため各成長段階を深く追及すること。

【留意点2】：様々なステークホルダーを考慮して方策を提言すること

ベンチャー企業は成長するにつれて多くのステークホルダーを有していくため、提言はベンチャー企業から見た視点だけでなく、それらステークホルダーを加味した多角的な視点を持って行うこと。

※補足説明

・ベンチャー企業とは「新しい技術、新しいビジネスモデルを中核とする新規事業により、

急速な成長を目指す新興企業」と定義する。

- ・望ましいベンチャーファイナンスは企業によって異なるため、ベンチャー企業は IPO すべき、M&A すべきといった結論や討論は控えていただきたい。

- ・論点4の提言に関して、出口戦略後に対するものは避けていただきたい。

(ただし、IPO 前後を検討する必要があるクロスオーバー投資等の提言は可能)